

子供の遊びに關する材料の變化について

三 浦 ひ ろ

遊ぶ事が若し子供の全生命だといふ事が認めら

れるとするならば其の子供の生命を指導し育て、

ゆく教育者は之に全生命を打ち込んで研究もし精

進もしなければならぬものだと思ひます。

可愛い、駒鳥

決して良い加減のところは停止して安心すべき管

胸毛をふくらしして小鳥の囀る時。

ではないと思ひます。

小さい頭をかしげて物思ふらしい様子を見せ

てはならないと思ひます。

る時、心の底からのあるあどけなさを感じさ

かういふ前提の下に最も子供に忠實な教師が一

せられます。子供達の遊びを見て居た時に相

つの材料に面接した場合にとるであらう態度につ

等しい思ひを起す事があります。

いて考へて見たいと思ひます。

方 法

念の爲に材料を左に先づ擧げて然る後に説明に

1、一小節から四小節迄。

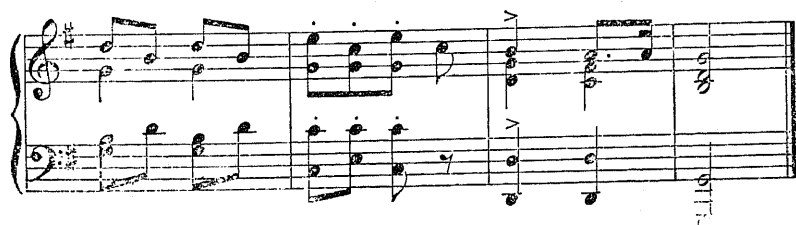
及び度いと思ひます。

臂を横に伸し軽く上下に動しながら自由の方

題はかはい、駒鳥、幼児或は尋常の一・二年頃

向にスプリングを行ふ。其の場でジャムプを

か は い > 駒 鳥



行つてもよい。但しいづれにしても四小節目の最後には佇む。それはとんで來た駒鳥が木に止つたのである。

2、五小節から六小節迄。

頭を左右にむけてうなづく（左右二回）小さい鳥がよく何かを語り合つてゐるやうに頭をちよいと動す事があるがさういつた様子を表すのである。

3、七小節から八小節迄。

兩手を後に伸して羽ばたきをするやうに上下に動す。

4、九小節から十二小節迄。

五小節から八小節迄の動作を繰り返して行へばよいのである。

餘り強くないが跳躍を交へた遊びで

ある爲に全身的の活動を要求してゐます。頭、上肢、下肢の動作を伴つてゐる點に於いてたしかに全身の運動であるといへませう。

しかし右の材料は動作が極めて簡單でありますから、方法をよく讀めば教師の練習なしにでも子供にさせる事は出来る程のものであります。

一見非常に容易な材料でありますが、考へてみればその容易なところが案外むつかしくなる事もあります。我々がこの材料に接した場合先づ考へなければならぬのは之を身體的に見た部分、即ち頭、上肢、下肢の動作を伴つてしかも跳躍を交へた遊戯であるといふ點ともう一つは之を精神的面から考へて、子供の自然物に對する細い觀察と至純な共鳴心をやしなふ點であらうと思ひます。ですからこの材料を若し純粹な體育的方面の材料とするか。それとも子供の全生活としての遊戯といふ意味で取扱ふかによつて教授に對してかな

り深い考慮を拂はなければならぬ事になつて來ると思ひます。

今、後の目的によつて考へを進めてみたいと思ひます。即ち子供の生活としての材料とした場合であります。さうしますとこの材料の要求してゐる點は精神的方面と身體的方面の兩方で何れにも甲乙はありません。

かうした場合の教授はやはり主觀から這つた方が自然でありかつ苦勞なしに求める所を充してゆけるのではありますまいか。

でこの方法をとるとしますと、先づ駒鳥の觀察といふ事が考へられなければならぬのでありまして、主觀から出發してその直觀したところを子供が自らの動作に表すとふ事になつてゆくのであります。この方法でゆかう爲にはこの材料は誠に困つた材料なのであります。第一日本で駒鳥などを觀察し得るのは極特殊の場合に限られてゐる

ので雀やからすのやうにやたらに駒鳥は居りません。ですからこの材料を全然子供の直観にまかせるといふ事は到底不可能な事になつて來ります。

何とかして進路を轉じなければどつちへも行けぬ事になりませう。といつてこんな場合にすぐに教師の模倣から這入つて教師が文學によつて了解した所をそのまま子供の動作にさせてしまつては本當に冷淡な教師とならなければなりません。何故なら子供の爲に要求せられた大切な二つの目的の一つをふみにじつた事になるのですから。

一體よく／＼観ますとこの材料は決して駒鳥を直観させて駒鳥の知識を正確にさせるのでもありませんし、駒鳥の動作を知らせるのでもなくて、實は駒鳥は供物で目的にあるのであります。ですから本當に子供の爲に親切な教師であるならば、この子供に對する大きい要求をいづれも省略する事なしにみたさせる爲にこゝで研究をし工夫をぬ

ぐらすだらうと思ひます。しかもその事はさう大して困難な事ではないのであります、材料を雀にとつても決して差支へはないのであります。何故に駒鳥の材料を雀にかへたかといふ點に對して教師が十分に信念を有してゐるならば子供に對しての要求は些の變化もしてゐない事になるのでありますから、結果として表れるものは又駒鳥であつても雀であつてもすこしのくるひもないわけであります。

× × ×

かうして便宜上駒鳥が雀にかはりました。しかしこれは單なる便宜ではなくて教へるものゝ本當に周到な心遣りの賜なのであります。先づこれでは子供の直観はかなり自由な立場に置かれた事になります。

さて子供にいよ／＼直観させる事になるのでありますが、決してあの駒鳥の解説にあつた動作のやうに

する爲に何もこま／＼しい注文をする必要はないと思ひます。雀が何をしてゐたかといふ間で澤山だと思ひます。子供の觀察力の如何によりて觀察の結果にかなりの相異があらうと思ひますがそれで結構だと思ひます。その觀察した動作を曲に合はしてさせてみるのです。其前にスキップとかギャロップとかマーチ、かけあしといつたやうに子供はかなり曲と共に動いてゐるものとすれば、極めてリズムカルであるべき子供は十分に其動作を曲と共にそこに演出するだらうと思ひます。しかもそれは何等束縛のない子供自身のものとして。さうしてゐる所へ更に教師の適當な發問が加へられるならば子供は更に異つた動作を雀の上に見出して來るでせう。

勿論子供各自によつて各々異つた動作を持つて居る筈で決して一言した動作を要求するわけにはゆかぬと思ひます。しかし其の異つたところに非

常な妙味があるものであると思ひますし子供の自然物に對する觀察を指導する道を見出す事も出來ようかと思ひます。

かうして幾度かの觀察の後に少くとも子供は變化ある二つ以上の雀の動作を體得する事になつて參ります。

そして同時に二つの動作を行ふ事になつてはじめてあの駒鳥の動作にある二つの區分と同様な區分に於いてその動作を二つつなぎ合はせる約束を結べばそこに曲の變化に伴ふ、動作の變化を持つ事が出来る事になります。

そして「かはい、駒鳥」が何時の間にか「小さい雀」に變化してしまつてゐます。そして兒童各自が皆めい／＼に自分の動作を試みることになります。

とつである劇的なもの、活動的な假想的な、眞に劇的なものでなければならぬと言ふのである。それでなければ劇は兒童に取つて空しいひとひらの名に過ぎなう。

劇的でないものを強ひて劇らしく見せようとする所に、一切の無理が生ずる。そしてその一切の無理をもつて、本來劇的である兒童にのぞみ、兒童を縛つてこれを驅使しようとする。教育家が劇を解せずして演出に手を着けるのは、やがて兒童を酷遇し虐待する事になる。これにくらべれば劇らしいもの、脚本のやうなものを書いて、ひとり悦に入つてゐる方がどれ程罪が軽いか分らぬ。

ほんたうに表現の満足がなく、演ずることの喜びが缺けてゐる時、兒童が華美は衣裳、立派な舞臺をもちたがり、見られる事を欲するのは決して兒童の罪ではない。その事はすでに兒童劇の議論で説かれてゐる筈である。屋上屋を架する兒童劇

の議論が不要としても、たとへその一斷片でも机上の空論でなくなるまで、讀返され、ほんたうに理解されないうちは、迂濶に看過しがたいものと思ふ。

~~~~~  
(二三頁よりつゞく)

作者に又は振付者に忠實であるといふ事は本當にその演出者として美しい態度だと思ひます。しかし必ずしも動作を寸分違はずに演出する事以外に忠實であり得ないと心配する必要はないと思ひます。

最も肝心なのは作者又は振付者の希求の本體を深く見詰めて、それに忠實である事でありませう。そして其の爲に時に動作に多少の變化を伴ふ事は許されるべきだと思ひます。